

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-309860

(43) 公開日 平成10年(1998)11月24日

(51) Int.Cl.⁶

B 4 1 M 3/16

識別記号

F I

B 4 1 M 3/16

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平9-159124

(22) 出願日 平成9年(1997)5月12日

(71) 出願人 000212407

中村 稔

京都府京都市伏見区深草中ノ島町13番地

(72) 発明者 中村 稔

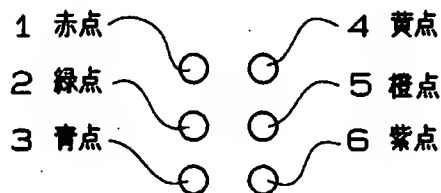
京都市伏見区深草中ノ島町13番地

(54) 【発明の名称】 配色で文字、記号を表わす方法

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】縦3個横2列の点の組合わせで成る点字の各点
に色を割り当て、その色の組合せを、点字の意味と同じ
にした、配色で文字、記号を表わす方法を提供する。

【解決手段】基本的には6点の組合わせで成る視力障害
者用の点字の各点に色を割り当て、点字に対応する色の組
合わせにより文字、記号を表わす。従来、点字は無彩色
又は単色のみで表示され、ほとんどの正眼者には近寄り
にくく、又無味乾燥なもので、興味を持ちにくいもので
あった。明るい、きれいな色を彩色することにより、配
色を目視にて識別し解読するように計っている。6色の
組合わせで数字、かな、アルファベット等を表示できる
から、従来黒一色で表記されているバーコードを、彩色
によるバーコードにすると、無味乾燥なバーコードを、
楽しいものに変えられ、意匠効果を図れる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】縦3個横2列の点の組合わせで成る点字の各点に色を割り当て、その色の組合せを、点字の意味と同じにした、配色で文字、記号を表わす方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】〔産業上の利用分野〕点字、暗号、バーコード、占い等。

【0002】〔従来の技術〕本発明は赤、緑、青等の配色により文字、記号を表わす新規な方法である。

【0003】〔発明が解決しようとする課題〕配色をもって文字、記号を表わす場合、色数、組合わせ等無限にあり、手前勝手な方法では他者に受入れられない。他者にも理解できる、あるいは馴染み易い明確な法則性が必要である。

【0004】〔課題を解決するための手段〕縦3個横2列合計6個の点の組合わせで成る点字の各点に色を割り当て、その色の組み合わせを点字の意味と同じにして、配色で文字、記号を表わす。この方法で表わした配色物を配色文字と称する。

【0005】〔実施例1〕実施例1の彩色点字について詳述する。視力障害者のための点字は縦方向3点、横方向2列、合計6個所の点の組合わせで成り、通常は黒等の無彩色一色で表示されたり、紙、金属板等にプレスした凸みの点で表示されている。一般の正眼者には、無味乾燥なもので、興味の持ちにくいものであり、点字を習得する場合も、点の位置を覚えるのが大変で、又老眼の場合点の位置の判別が困難等がある。点字の各点に固有の色を着色して、正眼者に点の位置の判別を容易にする。図1に於いて点1に赤点、点2に緑点、点3に青点、点4に黄点、点5に橙点、点6に紫点を割り当てる。例えば(サ)の場合、点字は点1、点6が黒丸となるのが、赤、橙、紫となる。点の位置が色により判別が容易になる。彩色効果により、点字が楽しいものになり、幼児も興味を持つものになり、点字を早くから習得し、視力障害者とのコミュニケーションを計るのに役立つ。絵本に点字を添える場合、黒色の場合、文字と混ざり無色の場合、味気ないものになるが、着色してあると楽しいものになる。テレビゲームやポケットベル等の文字表記に適応すると、絵の中に組込み暗号化してゲーム性を増やしたり、第三者に容易に内容を知られない様にすることが出来る。点字を習得しないとゲームの点数が上がらなくなると、点字学習の良い機会になる。紙幣、各種カードのカラー印刷の中に、着色点字を小さくして、暗証記号として混入させると、偽札、偽カードの予防や発見を容易に出来る。LEDランプを使用して表示する場合は4赤、5緑、6青と一列目と同じにすれば3色のランプで表示が可能となる。配色としては点1、点2、点4が使用頻度が多いので明るい色を割り当てると文全体が明るい色調になる。キーホルダーや筆記具等に彩色点字で名前等を付加し、指の感触のみで判読できる様になれ

ば願い事が叶う等の楽しい使い道がある。写真の中に日付を入れると、日付の文字が写真の雰囲気や壊す場合がある。彩色点字で入れると絵柄の中に溶込ますことが出来る。

【0006】〔実施例2〕実施例2の配色文字を詳述する。実施例1に於いて点字(サ)の場合、赤、橙、紫の3色を認識すれば点の位置を認識することなく(サ)と判定できる。実施例1で出来た配色を点の並び、又は、点を線に変えて並べてそのまま文字、記号に置き換える。図2は(サ)を線で表わしている。線7は赤線、線8は橙線、線9は紫線である。線の形は判読に支障のない限りS字、コ字等に曲がっていてもよいので意匠効果が大となる。バーコードに適応する場合、従来の黒線バーコードは線の太さを変えているが、本方法ならば線の太さは一定でよいので、読取りが簡単となる。又、服、アクセサリ等のファッション用品や、絵本のバーコードは黒一色では味気ないが、本方法ならば意匠効果大となる。点字における左列3点共使用する場合は3色で表示しないで別の色、例えば茶色、灰色等に置換えると線数を減らせる。光ファイバーセンサーで読取り、光ファイバーで他の信号に変換することなく、そのまま伝送することが出来る。

【0007】〔実施例3〕実施例3の配色円文字を詳述する。実施例3は実施例2の線を円に丸めたもの。図3は(サ)を示し10赤円、11橙円、12紫円となる。13表記部は元となる(サ)や、点字の(サ)を記入し、習得を容易にする。

【0008】〔実施例4〕実施例1に於いて0、1～9の1桁10個の数字は色数4色を使い、最大4色表示(7の場合)となる。1～6は割当てた色一色で表わし7、8、9、0は2色で表わすと色数6色、最大2色で処理が可能となり、表示を短くすることが出来る。7は点字の点2と点5、8は点2と点6、9は点3と点6、0は点1と点4を割当てると各点の数の和となっているので記憶しやすい。

【0009】〔実施例5〕占いの方法。氏名、生年月日等を配色文字に変換し、各色の個数をグラフ化し、そのグラフのパターンをもって、性格、運勢等に当てはめる。パソコンソフトで簡単にグラフ化が出来る。

【0010】〔実施例6〕配色文字の描画ペンセット。実施例1で割当てた色の6色の筆記具の胴部に、点字でその色と数字を表示しておく。正眼者には点字の練習用に使用し、視覚障害者は着色絵画を楽しむことが出来る。

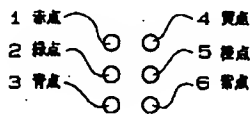
【0011】〔実施例7〕彩色点字の作成方法。厚板台紙上に、点字の6個所全てに穴を設けて、文字間隔、行間隔に配置して並べる。この穴の直径と同一の直径を持つ着色球を所要の位置にはめ込み点字を構成する。穴の反対側から着色球を棒で押し出せば、修正、再使用が簡単に行える。従来点字にも適応できる。球は鉄や磁材

3

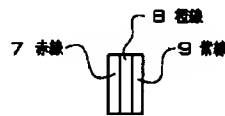
で作ると磁石によるピックアップペンが使用できるので、小球でも取扱が楽になる。台紙の穴を貫通させておくと光電センサでの読取りが簡単に行える。特別な道具が不要なので場所を選ばず点字作成が可能。

【図面の簡単な説明】

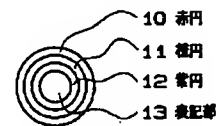
【図1】



【図2】



【図3】



【手続補正書】

【提出日】平成9年5月29日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】追加

【補正内容】

【0012】[実施例8] 凹凸面へのカラーバーコード付与の方法。実施例2の配色文字によるカラーバーコードは配色のみで成り立つので、カラーバーコードの付与面は凹凸があったり、線のピッチや幅が不揃いでも、色さえ確認できればよい。布の場合刺繍を施すか、染色、プリントする。着物の場合絵柄の中に、花や、波などに模して入れるのも良い。帯で隠れる部分に入れてやれば使用上差し支えない。ケーキ等の食品には、クリーム、チョコレートを着色して付与する。陶器、タイル等は絵

付けで対応する。線の幅や形を気にせずに手書きで可能なため特別な印刷機を必要としない。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】追加

【補正内容】

【0013】[実施例9] 配色の実施例。ポケットベルのメッセージ送信は0～9の数字2個の組合わせに、かな、英数字、記号を割当てている。この0～9の数字に10色の色を割当てると、2種の色の組み合わせで文字、記号を表示することができる。色を10色必要とするので、色割当ては複雑になるが、全て2色なので読取りが簡単となる。白、黒は字間の色として10色の内に使用しないのが良い。

PAT-NO: JP410309860A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 10309860 A

TITLE: METHOD FOR REPRESENTING CHARACTER OR
SYMBOL BY COLOR
ARRANGEMENT

PUBN-DATE: November 24, 1998

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
NAKAMURA, MINORU

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME COUNTRY
NAKAMURA MINORU N/A

APPL-NO: JP09159124

APPL-DATE: May 12, 1997

INT-CL (IPC): B41M003/16

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a method for representing a character or a symbol by color arrangement in which each point of a braille comprising a combination of points of three columns and two rows is assigned with a color such that the combination of colors represents the meaning of the braille.

SOLUTION: A color is assigned to each point of a braille for visually handicapped person basically comprising a combination of six points and a character or a symbol is represented by a combination of

colors corresponding to the braille. Conventionally, a braille is colorless or monochromatic and it is strange, dull and uninteresting for almost all person of normal vision. The points are colored with light and clean colors so that color arrangement can be identified and interpreted visually. Since a numeral, a kana, an alphabet, and the like, can be represented by a combination of six colors, a dull bar code can be changed to a cheerful code by changing a conventional black monotonous bar code into a colored bar code and a decorative effect is attained.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO